

原田毅議員

雇用と経済対策について

議員 ①就業サポートセンター（仮）等の創設についてたずねる。

②仕事の悩み相談・就職支援セミナー等に取り組む考えをたずねる。

市長 ①市町村は、限られた目的や範囲での職業紹介しかできない。また、職業紹介に当たっては専門的知識を必要とするので、人材や組織体制の整備など就業サポートセンター等の設置は困難であると考えている。就業サポートについては、笠岡公共職業安定所との連



携を密にし、求人、企業情報の提供などサービスの向上に努めていく。

②笠岡雇用開発協会では、主に雇用対策の問題について活動を行っている。その中の労働力確保対策として、就労支援アドバイザーによる職場適応指導や、社員実践トレーニングなどの研修会を開催している。仕事の悩み相談、就職支援セミナー等の取り組みについては、笠岡雇用開発協会の事業の中でどういう取り組みができるか検討していきたい。

子ども・若者育成支援推進法の活用について

議員 この法律は、不登校やニート、ひきこもりなどの困難を抱える子ども・若者への支援を進めることを目的の一つとして昨年7月1日に公布された。本市の対応策、今後の計画についてたずねる。

市長 現在、国において子ども・若者育成支援施策の

推進を図るため、大綱の作成に向けた検討が進められている。5月上旬を目途にこの意見が取りまとめられる予定である。本市における対応策及び今後の計画についてだが、国の大綱が作成されていない段階で、市として具体的な取り組みは現在のところ計画はないという状況である。今後、国及び県の動向を見ながら検討して、考えていきたいと思っている。

大本益之議員

笠岡市笠岡湾干拓地域バイオマスタウン構想について

議員 笠岡市バイオマス利用推進協議会が一昨年に設立され、同時に堆肥部会、バイオエタノール部会、バイオディーゼル部会の3部会を設置し、調査、検討されている。現在までの3部会それぞれの進捗状況についてたずねる。

市長 バイオディーゼル部会については、廃食用油の回収システムの構築や品質向上を検討してきた。当面は、生産施設を運営している笠岡学園の支援を続ける。堆肥部会については、共同堆肥舎の増設について協議する予定である。

バイオエタノール部会については、ソフトセルロース系のバイオマス資源からバイオエタノールを生産し、これを媒体として循環型農業を目指すために、岡山大学農学部の研究課題として取り組んでいる。今後は、バイオエタノール生産の実験プラントの誘致に取り組む。

不育症について

議員 不育症は、妊娠はするが流産や死産を2回以上繰り返して子どもを持つことができないという病気で、さまざまな原因により起こるそうである。

①本市における相談体制などについてたずねる。

②不育症の検査や治療には患者の経済的負担が重いと聞くが、公的支援の現状についてたずねる。

市長 ①市民から相談をいただいた場合は、岡山県不妊専門相談センター「不妊不育とこころの相談室」を紹介するなどの対応をとることにしている。

②現在のところ国・県の公的支援の実施は聞いていない。今後、不育症の実態状況の調査も行いながら、経費がどの程度必要かということも検討してみたい。

議員 市独自の支援について前向きに検討を進めてもらいたいと思うが、どうか

市民部長 前向きに検討していきたい。



笠岡湾干拓地